

平成 29 年度

第 62 回 長野県中学校連合教科研究会

総合的な学習の時間

I	研究テーマ	1
II	趣 旨	1
III	実践発表校一覧、指導者名	1
IV	実践発表と協議内容	1～2
V	本年度研究会の反省と来年度の方向	2～3
VI	あとがき	3

I 研究テーマ

「地域や学校の特色を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発」

II 趣旨

総合的な学習の時間を通して、教師は単元や題材、1時間の授業を構想するだけでなく、最終目標や終着点を見据えたロングスパンでの生徒の育ちを見ていくことを大切にしていきたい。そのために、教師の支援や生徒の行為とその背景にある思いやねがいを読み解き、評価していくことで、生徒一人一人の学びの姿が見えてくると考える。また、問いをもって探究する学習を位置付け、社会とのつながりやE S Dなどを踏まえ、時代のニーズに沿った視点を意識しながら研究実践や省察を深めていきたい。

III 実践発表校一覧、指導者名

第1分科会 指導者 千葉 富夫 先生（北信教育事務所指導主事）
三浦 克友 先生（中信教育事務所指導主事）
世話係 北原 遼司 先生（信州大学教育学部附属松本中学校）

【第1分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	下伊那	17	緑ヶ丘中	福祉交流から学ぶ自分の生き方：2年
2	塩尻	5	広陵中	玄蕃の丞の聖地はどこだろう：2・3年
3	上小	4	青木中	働くことの意義を考えよう：2年
4	長野上水内	32	附属長野中	平和学習：3年
5	松本	25	附属松本中	浅間温泉活性化：2年
				実践発表者5名、その他4名 計9名

IV 実践発表と協議内容

【第1分科会記録】

【第1分科会】

1 緑ヶ丘中 高野利彦先生の実践発表「福祉交流から学ぶ自分の生き方」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・活動の振り返りから次の活動へと生徒の意識がつながるように、2年生において福祉交流学習、職場体験学習、2回目の福祉交流学習というカリキュラムの工夫を行った。
- ・現実的には、一から生徒が活動を決め出すことは難しい。しかし、その中で教師が題材との出会わせ方を工夫することはできる。

(2) 指導者からのご指導

- ・今年度、どのような探究的な学びが行われたのか、職員で振り返り、それを、来年度の年間計画の修正につなげていけるようにしたい。

2 広陵中 平林大和先生の実践発表「玄蕃の丞の聖地はどこだろう」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・講座別学習において、どのように生徒の主体的な学びを生み出すことができるか。また、そのとき、地域ボランティアの講師と教師の関わり方はどうあったらいいか。

(2) 指導者からのご指導

- ・総合の大前提は、個の追究の保障である。生徒がやりたいと思うことをやらないと、探究のサイクルは回らない。個の追究を保障することで、問いは生まれてくる。

3 青木中 宮澤紀夫先生の実践発表「働くことの意義を考えよう」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・職場見学を実施し、その体験から生まれた問いや課題について振り返りの場を設け、働くことへの関心を深め、テーマをもって職場体験学習に取り組めるようにした。
- ・職場見学や職場体験で感じたことを、ワークシートに書き溜めていくことが大切である。時間が経って、また自分の学びを振り返ったときに、新たな学びが生まれる。

(2) 指導者からのご指導

- ・職場体験学習を実施して、終わりにならないようにカリキュラムを工夫している。また、振り返りの場面で、思考ツールを活用することで、情報が可視化され、話し合いが深まっていった。

4 附属長野中 矢野司先生の実践発表「平和学習」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・学年間の学びのつながりを意識した、カリキュラムの変更。生徒と意見を交わし、選択できる総合へと転換していった。
- ・予定調和で進まない、生徒の発想のゆたかさに気付かされるところに、総合の面白さがある。

(2) 指導者からのご指導

- ・総合の時間を生徒に返し、任せるとき、生徒は自分で探求的な学びをプロデュースしていった。
- ・昨年度までのカリキュラムを踏襲するだけでなく、よりよいものに少しでも変えようとする先生方の熱意を感じた。

5 附属松本中 北原遼司先生の実践発表「浅間温泉活性化」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・生徒が主体的に活動にのめり込むための教師の支援はどうあったらよいか。主体的な活動を生み出す要件とは何か。

(2) 指導者からのご指導

- ・探求的な教師のもとに、探求的な生徒が育つ。教師自身が、探求的に学び続けることを大切にしたい。

文責：信州大学教育学部附属松本中学校 北原 遼司

V 本年度の反省と来年度の方向

項 目	内 容
○研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の方向でよいと思いますが、多くの学校では「より探究的な学習」にすることが課題となっています。それについて、研究していくのもよいと思います。 ・カリキュラムの開発は、テーマ具現に向けた手段であるように思います。地域の特色を生かした総合の在り方をテーマとして、重点項目としてカリキュラム開発があってもよいのかと思います。
○本年度の研究の成果と来年度の研究の方向について	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の実践、特に地域とのつながりを一番に考えた実践がたいへんよいと思いました。 ・引き続き、生徒への問いのもたせかたを中心にすえていきたいと思えます。 ・より探究的な学習になるように研究を進めていきたい。

<p>○研究会当日の運営について（希望者による実践発表、分科会やワークショップの在り方等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての体験でしたがよかったです。グループで回れたので、他校の先生と語り合うことも多く、寒さも忘れて有意義でした。 ・午後のワークショップは、フィールドワークということで楽しかったのですが、できれば各校の様子をもっとくわしくお聞きしたいと思いました。情報収集の場ということも大切かと思いました。 ・実際に先生方と街を歩くことで教材研究を行うことができました。学年でもあのような時間を設定することで、それぞれの職員が負担感を軽減できるような手ごたえを感じました。
<p>○研究会までの運営について（参加費、メール送付、Web ページからの申し込み等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な形式、当日持参可など、幅をもたせていただいていたので、参加しやすかったです。 ・メールで最小限、必要な連絡ができたのでよかったです。 ・今年度の教育課程校だけでなく、次年度の教育課程校にも事務局から積極的に声をかけていきたい。
<p>○運営全般について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく変化した連合教科ですが、もっと職員に知らせ「行ってみよう」と思えるよう、校内で広めていきたいと思います。参加すれば「来てよかった」と思える会だと思しますので、もっと多くの先生方に参加していただきたいと思います。 ・総合は松本中での開催が続いているが、長野中での開催でもよいのではないかと思います。

VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地からたくさんの先生方にお集まりいただき、生徒の学ぶ様子を基に指導のあり方について熱心に討議がなされ、多大な成果を収めることができました。

終日にわたって全参加校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました、指導者の千葉富夫先生、三浦克友先生に心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践について語り、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方に参加いただき、総合的な学習の時間の在り方について熱心な討議がなされることを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 北原 遼司
副委員長 矢野 司